

校名：秋田大学教育文化学部附属幼稚園

所在地：〒010-0904 秋田市保戸野原の町 14-32

電話番号：018-862-2343

記載日：平成 28 年 5 月 1 日

記載者：小玉 リツ子

記載者役職：副園長

校風、おおまかな特色について



☆幼児期からの主体性の育ちを促すため、自発的な遊びを重視し、幼児、教職員、保護者が共に
つくる保育を展開。

☆創立105年を数え、秋田市の中心にありながら約200本の樹木に囲まれ、四季折々の恵み
の中でのびのびと遊べる環境。

☆県内の保育関係者の研修・交流の場となる、年2回の公開研究協議会、研修会等の開催。

☆附属小学校、中学校、特別支援学校と同じ敷地にあるメリットを生かした交流、連携、接続。

貴校の卒業生の活躍状況について：

☆転居等以外はほぼ全員が附属小学校、附属中学校へ進学。附属中学校で名簿作成の予定である。

☆活躍状況等の調査はしていないが、卒園生の弟妹、子息、孫の入園志望が多く、リピート率が高
いことから、本園の保育への期待が高いと受け止めている。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

☆県教育委員会との交流人事のため、活躍等について把握できる状況にある。

☆附属校勤務者について、県教育委員会との連携によりキャリアアップを図るシステムがある。

魅力のある特色のある、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

保育の質の向上

- ☆幼児期にふさわしい生活の探究、自発的な遊びを重視した保育の展開
- ☆大学・学部、関係機関との連携による意味付けのある保育の実践
- ☆保育の記録、振り返りによる改善・探究

大学・学部との連携

- ☆学部教員の日常的な保育観察参与、附幼をフィールドにした実践的研究の発信
- ☆保育参観・研修会、保育を語る会、保育カンファレンス等…学部教員による保育実践の意味付け、助言
- ☆行事のもち方、入園選考等について、幼児期の特性等からの助言
- ☆大学講義での講話講師として、本園教諭、養護教諭等を派遣
- ☆学部教員による地域公開連続保育講座への参加

校種間連携・接続

- ☆幼保小接続・連携
 - ・3年保育、小学校の育ちを見据えた教育課程の見直し、スタートカリキュラムへの接続
 - ・TT保育、TT授業の実践、子供の交流・活動
 - ・学部教員を迎え、附属小学校教員と「幼小会」での協議・研修
- ☆附属中学校、特別支援学校との互恵的な交流・連携
- ☆実践の成果と課題をまとめ、改善して次年度に生かすサイクルの確立

研究成果の公開・発信、人材育成・活用

- ☆秋田県内唯一、毎年継続的に全クラスを保育公開。研究紀要発行による発信
- ☆県内行政関係者、保育者養成校教員の研修の場としての公開研、園内研の寄与
- ☆研究協議会、研修会の内容等をHPで発信
- ☆秋田県教育庁、秋田市教育委員会等との連携・ネットワーク強化
 - ・本県の課題についての実践研究、取組についての発信
 - ・秋田県保育者初任者研修会場の提供
 - ・秋田県教育庁幼保推進課主催の研修会への講演講師として、本園教諭を派遣

子育て支援 ～教職員と家族が共につくる保育～

- ☆幼稚園教育、幼児期の発達、保育への理解を図る口頭連絡、登園・降園時の相談
- ☆保育参観・参加、行事参加の際の保護者の感想記載とその共有化
- ☆長期休業中の様子等の記録、つばやき集の発行
- ☆学級懇談、個別懇談、誕生月別による懇談等の設定
- ☆PTA委員会所属による幼稚園、保育への参加

地域において、現在、貴園はどのような存在であると考えますか：

地域に貢献する幼稚園

保育新制度下での幼児期の保育研究拠点として

幼児期にふさわしい生活の探究・実践

子育て支援 幼稚園で遊ぼう

- ・園舎開放
- ・保育相談

幼公開研究会・研修会開催 研修プログラムの工夫

研修の場の提供・人材派遣 初任研会場、講師等派遣

幼小会の定期的開催

- ・附属小学校とのTT保育・授業、交流
- ・3年保育の教育課程の再考

秋田大学教育文化学部教員による助言・意味付けを基にした成果の発信

保育の悩みを相談したい

保育について研修したい、意見交換したい

保育の質の向上を目指した具体的な取組が知りたい

幼保小連携・接続を推進したい

地域のニーズに応える・発信する幼稚園



附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

